

北山文化環境ゾーン整備のコンセプト

① 総合資料館基本構想 (平成 21 年 3 月、座長:井口和起総合資料館長)

◎ 新資料館は京都に関する資料を収集・保存・提供する拠点

<持つべき機能 4 つの柱>

- 京都に関する資料の収集・保存と積極的活用
- 公文書館機能の充実
- 研究・学習・教育支援とネットワーク機能の強化
- 北山地域のなかの総合資料館

② 府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画

(平成 21 年 10 月 座長:邑田仁日本植物園協会会長・東大小石川植物園園長)

◎ 「日本一おもしろい、心やすらぐ植物園」

<実現のための 3 つの視点>

- 心をひかれる ~ビジュアル・アピール~
- 目をみはる ~超多様体感~
- 心がやすらぐ ~非日常空間・文化~

※ グリーンカフェ、隠れ家トイレ、ボタニカル・ウインドウ、北山オープンカフェ、ブラインドコントロール室、高山植物栽培室、クスノキ並木、トリの目(空中回廊)、正門エントランス、植物殿堂館などの整備を計画

③ 北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告

(平成 21 年 10 月 北山文化環境ゾーン整備推進委員会 白幡洋三郎委員長)

◎ 北山地域街づくりのコンセプト

- ・ 文化と環境に包まれたやすらぎと交流の中で、京都を世界に発信する街
- ・ 開放感あふれ、歩いてまわりたくなる街

● 北山地域のエリアイメージ

○ 感じる (文化)

人々が活発な交わりの中で心を遊ばせる空間 …………… 主として北山通に近い地域

○ 学ぶ (学術)

人々が知的な刺激の中で思索を深める空間 …………… 主として北山通から遠い地域

○ やすらぐ (環境)

人々が花と緑に抱かれて心を取り戻す空間 …………… 主として植物園地域

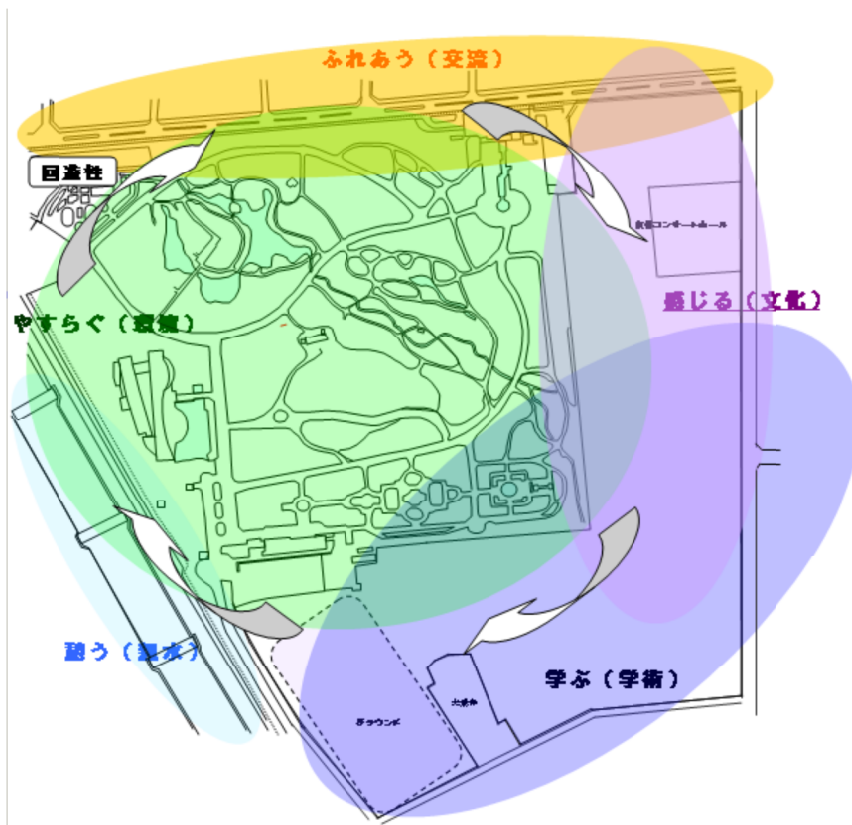
○ 憩う (親水)

人々が水の流れ雲の流れを前に心を休める空間 …… 主として賀茂川沿い地域

○ ふれあう (交流)

人々がおしゃれな街並みの中でふれあいに心を弾ませる空間

…………… 主として北山通沿い地域



- 総合資料館と府立大学とが連携する新施設の整備の方向性等
※ 国際京都学センターを設置し、全国的・国際的交流と情報発信の拠点とする
- 府立植物園の整備の方向性等

④ 「北山文化環境ゾーン整備委員会」における検討状況について

(平成 22 年 5 月 北山文化環境ゾーン整備委員会 麻生純委員長)

- 上記街区構想のエリアイメージを配慮事項として踏襲
- 『北山地域エリアイメージの、「感じる(文化)」と「学ぶ(学術)」がオーバーラップしているあたり、また、京都学振興を大きな目標としている府立大学エリアにもかかる位置』に、新資料館と3大学教養棟を配置

⑤ 「北山文化環境ゾーン」のイメージ「未来図」

(平成 22 年 5 月 上記 4 委員会の検討内容を総合化してまとめ、井口氏が発表)

- 現資料館跡地に舞台・視覚芸術系施設やアートパフォーマンス広場、同広場から府大キャンパス南側まで南北一直線に続く北山プロムナードなどが描かれている。

<参考>

北山地域周辺の立地環境

この北山文化環境ゾーンは、京都市街地の北部、かつての京の内裏の背後にあたり、広くは下鴨以北の高野川・賀茂川流域一帯、紫野あたりから北に広がる洛北の範囲に重なる自然環境に恵まれた地域である。

世界遺産の上賀茂神社、下鴨神社の中間にあり、ゾーン内には総合資料館、植物園、陶板名画の庭、京都コンサートホール、府立大学が、近辺には京都工芸繊維大学、ノートルダム女子大学、京都産業大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都国際会館等が立地するなど歴史的・文化的・学術的施設が集積している。

これに加えて北山通にはカフェ、レストランやブティック、ブライダル施設などが建ち並びオリジナルでおしゃれな街並みを形成している。

